

2022年度農林水産省行政事業レビュー(公開プロセス)の結果
輸出環境整備推進事業

<評価結果>

「事業内容の一部改善」

◇ 評価結果

現状通り	2名
事業内容の一部改善	4名
事業全体の抜本的な改善	0名
廃止	0名

<取りまとめコメント>

○事業の課題や問題点

・レビューにおける一連のプロセスを通じて、ロジックモデル等も改善され、事業が実現すべきアウトカム(短期、中長期)がより明確に示されるようになった。この間の担当課の努力は大いに評価したい。

・輸出拡大のためには、本事業以外にも、ハード整備事業も進められており、そうした事業との関係性の整理、さらには、事業の効果に関する分析等をさらに促進し、より事業の効果が発揮できるような戦略等の見直しを不断に進める必要がある。

・政策の検討においては、事業の必要性、効率性のみならず、その効果に着目した検討や説明がさらに取り込まれるようになることが望ましい。

・各報告書等がどのように実行計画に貢献したのかレビューも公開して欲しい。

・アウトプット、短期アウトカム、長期アウトカムと細かな項目が列挙されているので、そのモニタリングを国民にも分かりやすい形でどう行っていくかが難しいと思われる。

・ロジックモデルのアウトプット指標①がどのように中長期アウトカムの指標④につながっているのかが見えにくい。

・①アウトカムについて、国際認証取得等を行った事業実施主体における輸出目標額の達成率を100%としているが、各事業主体の自己申告による目標額との比較となっており、設定者の主観による。設定の仕方によって、達成率を高くすることもできてしまう。

・②政府間交渉が、コロナ等により執行率が低かったとのことであるが、急激なIoTの進歩に合わせて工夫することにより、コストは下がっても、執行自体は維持することができるのではないか。

・③2兆円の輸出額達成目標について、本事業による成果か、単純な為替の影響によるものか判別しがたい。

○事業の改善の手法や見直しの方向性

- ・個別事業だけではなく、輸出拡大を進めていくという大きな政策課題を対象にしたロジックモデルを作成し、ハード整備事業や他の事業も含めた課題の整理を進めていくことが必要。
- ・政策課題ごとの検討を通じて、事業の必要性に留まらない、政策や事業について「やってみてどうだったのか」といった効果の検証に基づいた改善や次なる事業立案に直結させることが必要。
- ・効果の検証を通じた次なる政策立案・改善に速やかにつなげるためには、事業設計と併せて、どのようなモニタリングを進めていくのか、調査・評価設計にも取り組んでほしい。
- ・各アウトプット指標、アウトカム指標は短期、中期、長期と適切に整理できている。輸出拡大に関しては複数の施策があるが、それぞれの施策がどのように効果を上げているのかがより明確になるとよい。
- ・モニタリング手法について説明を受けたが明確ではない。ルール化、すなわちその方法論について書面にして公開できるような形を採用すべきではないかと思う。
- ・指標④(レビューシート3ページ一番上)のアウトカム指標の置き方を見直すべきではないか。
- ・①について、国として達成したい額を積み上げるための内数として意識しつつ、各社の目標数値が適切なものであるか、達成率が高いところについては、もともと目標が低いのではないか。また、低いところについては、その原因と改善のためのフォロー等もしていくべき。
- ・②について、現地へ行くことの重要性は理解するが、旧態依然としたやり方に固執せず、今の情勢・技術の進歩を踏まえて、より効率的・効果的なやり方を相手国とも交渉しながら進めるべき。
- ・③について、純然たる為替の影響を排除し、本政策による成果として、我が国の生産物の品質が海外で認められて販路を拡大できているのかを成果として測れるようにアウトカム指標を工夫すべき。(為替が円高にふれたときに、価格競争性だけであると輸出額に影響が出てしまうため。)